

文章題の取り組み方

3要素2段階の問題

主に文章題で、問題の中に3つの要素が与えられていて、解決するための四則計算が2回にわたる問題を、3要素2段階の問題といいます。

例えば、右のような問題では

1皿に5こずついちごをのせる。

いちごは30こある。

お皿は4まいのこっている。

という3つの要素が与えられています。

この問題の解決にあたっては、普通、

まず、いちごをのせたお皿の数を求める。

$$30 \div 5 = 6 \text{ (まい)}$$

次に、全部のお皿の数を求める。

$$6 + 4 = 10 \text{ (まい)}$$

という2段階を分解式で表します。

また、計算式を、次のように総合式で表しても、3要素2段階の問題に変わりはありません。

$$30 \div 5 + 4 = 10 \text{ (まい)}$$

なお、3年では、分解式で問題を解決できればそれでよく、無理に総合式に表して解決させる必要はありません。それは、次のような理由からです。

分解式で、指導のねらいが十分達成できること

分解式は、問題の文脈に即して思考を繰り返せばよいので、児童に抵抗が小さいこと

分解式で解決できれば、総合式に表す意欲が湧かないこと

上のいちごと皿の例は、わり算とたし算が組み合わせられた場合ですが、ほかにもいろいろな演算の組み合わせが考えられます。いずれにしても、3つの要素とそれらの関係を明確にとらえ、適切に演算を決定できるようにすることが大切です。

1

30このいちごを、1皿に5こずつのせました。

お皿は、まだ4まいのこっています。

お皿は、みんなで何まいありますか。







